

複合環境制御技術によるきゅうりハイワイヤーつる下ろし栽培に適した品種の特性及び作型

【概要】

県北地域において、高規格ハウスと隔離床を用い、複合環境制御技術を活用したきゅうりハイワイヤーつる下ろし栽培に取り組む場合、以下の品種・作型が有効です。

1 品種

(1) 穂木品種は、「緑華（図1左）」が適します。

ア 「緑華」は、可販収量が「ニーナZ（図1右）」とほぼ同等で、可販果100kg当たり栽培管理時間は「ニーナZ」よりも少なく（表1）、労働生産性が高くなります。

イ 「緑華」は、雌花率が高く、長期栽培で課題となる枯死株も少ないため（表1）、安定生産が可能となります。

2 作型

作型は、1作長期どりが適します。

1作長期どりは、2作長期どりより生存株率は劣るものの、可販収量が23%多く、可販果100kg当たり栽培管理時間も少ないため（表2）、労働生産性が高くなります。

3 留意事項

12月以降は生育が停滞するため、営利栽培の晩限は11月下旬となります。



図1 緑華(左)及びニーナ(右)
(草姿：R4. 8. 4、果実：R4. 7. 26)

【試験データ等】

表1 きゅうりハイワイヤーつる下ろし長期栽培における品種間比較

品種※1	可販果100kg当たり栽培管理時間 (hr/100kg)	雌花率 (%)	可販収量 (t/10a)	生存株率 (%)
緑華 (A)	8.5	89.7	24.1	74.9
ニーナZ (B)	9.2	79.4	23.9	35.4
A/B比 (%)	92.3	112.6	100.8	211.5
統計的有意性※2	*	**	NS	**

※1：台木品種；ときわパワーZ2、作型：1作長期どり ※2：Welchのt検定またはLog-rank検定（生存株率に限る）により、*は $p < 0.05$ 、**は $p < 0.01$ で有意差あり、NSは有意差がないことを示す（ $n = 8 \sim 16$ ）。

表2 きゅうりハイワイヤーつる下ろし長期栽培における作型間比較

作型※1	可販果100kg当たり栽培管理時間 (hr/100kg)	雌花率 (%)	可販収量 (t/10a)	生存株率 (%)
1作長期どり (A)	9.2	79.4	23.9	35.4
2作長期どり (B)	9.4	73.3	19.5	100
A/B比 (%)	102.2	108.3	122.6	35.4
統計的有意性※2	*	NS	*	**

※1：穂木品種；ニーナZ、台木品種；ときわパワーZ2 ※2：Welchのt検定またはLog-rank検定（生存株率に限る）により、*は $p < 0.05$ で有意差あり、NSは有意差がないことを示す（ $n = 8 \sim 16$ ）。

〔耕種概要〕 品種：緑華またはニーナZ×ときわパワーZ2、作型：1作長期どり（R4. 3. 23 - R5. 1. 10）または2作長期どり（R4. 3. 23 - 8. 3、8. 10 - R5. 1. 10）、栽植密度：1,111株/10a、栽培法：養液栽培、かん水・肥培管理：OAT SA処方2液方式、日出～日入1時間前30分間隔・タイマー点滴かん水同時施肥

【令和5年度成果】複合環境制御によるきゅうりハイワイヤーつる下ろし栽培に適した品種の特性及び作型（R5-指-29）